テーマ～水について考える～

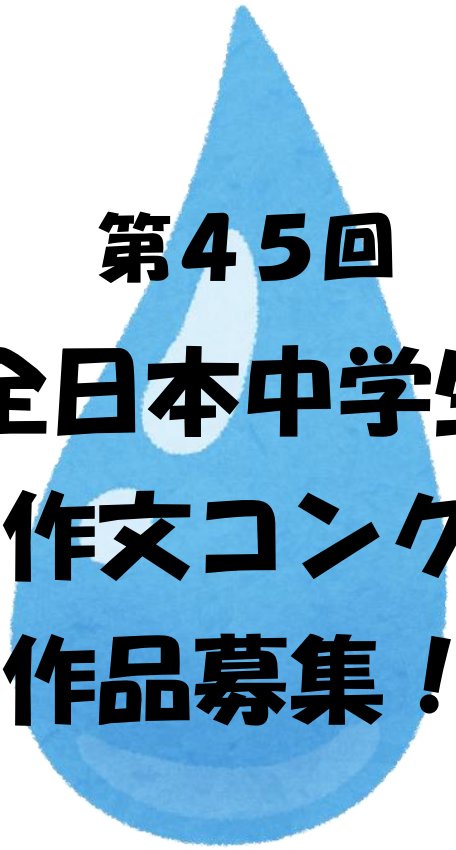
「水の国くまもと」と呼ばれるほど豊富な地下水に恵まれている私たち。この機会に、水について考えてみませんか？

Point1

水にまつわる体験や学習を思い出してみよう！

Point2

自分の意見や、今後心がけていきたいことを書こう！



第４５回 全日本中学生 水の作文コンクール 作品募集！！

過去の受賞作品は→

表　彰

受賞者に対しては、熊本県が各学校を訪問し表彰を行います。受賞者には賞状及び副賞があります。

あなたの学校にもくまモンが！？

参　加　賞

応募者全員に参加賞があります！！昨年度はくまモンイラスト入りシャープペンシルでした。今回もお楽しみに！

皆さんの作品楽しみにしています
奮ってご応募ください★

裏面も参考にしてね！　→→

★作成のポイント（過去の受賞作品を例に）

「あいにく」

※題名は自由

冒頭で読み手の興味を引く工夫をしてみよう

甲佐町立甲佐中学校（こうさちょうりつこうさちゅうがっこう）　三年（さんねん）
※学校名（ふりがな）　学年　豊永（とよなが）　はる
名前（ふりがな）

「明日はあいにくの空模様でしょう。」

「本日はあいにくの雨の中…。」

よく天気予報や挨拶で耳にするフレーズだ。しかし、私は「あいにく」だとは思わない。

夏の暑い日、父は自宅近くの畑まで両手にバケツを持って何度も往復していた。私も手伝ったことがあるが大変な作業であった。農家の祖父母は雨が降ると、

「今日はよか雨が降った～。」

と喜んでいた。雨は行事が中止になったり、外出することがおっくうになったりするが、雨を待ち、喜んでいる人もいる。私は雨が大好きだということではないが、何となく、「安心する」というのが私の正確な答えだ。

水も雨も農家にとってなくてはならない。川よりも低い場所の田畑に水を入れることは容易に想像することができるが、川よりも高い場所や斜面の土地ではどうなっているのかという疑問を持ち、調べることにした。

近所の場所では「上井手用水」ばれる用水路がある。大きな川にせきを作り、上井手用水へ流れ小さな用水路や水道橋などを通って田畑へと水を引き込る。他にもため池や水車、山都町にある円形分水など様々なあり、水を安定して利用するための先人たちの知恵を知るきた。水を有効に利用することは弥生時代の稲作が始まった取り組んでいることがわかっている。人々にとって安心した生活を送るために水や雨がどれだけ大事かということを知った。

水についての学習・体験

オリジナルの体験を入れよう

しかし、雨が大嫌いになる出来事が起きた。昨年の熊本豪雨だ。テレビで流れる衝撃的な映像に大きなショックを受けた。何度も訪れたことがある人吉球磨地域。あの球磨川や万江川、川辺川が恐ろしい姿に変わった。人吉に住む友人が心配で、無事であることがわかった時は涙がでた。父は以前、人吉に住んでいたこともあり、災害後すぐにボランティア活動に参加し、ほぼ毎週人吉に行っていた。クタクタで帰ってくる父に

「大丈夫？」

と声をかけると、

「今、行動せんといかん。」

という力強い答えが返ってきた。その後、中学校でボランティア活動の募集があり、すぐに申し込み球磨村へ行った。言葉が出なかった。その光景に「水は残酷である」と感じた。家は壊滅状態、田畑には土砂がたい積し、色々なものが流れ着いていた。そこには祖父母や父のような田畑を大事にしてきた人がいたのだろうと思い、一生懸命土砂と漂流物の撤去を頑張った。一緒に参加した皆の力で何とか元の姿に近いところまで整備することができた。その時の被災者の方の涙は忘れられない。「今、行動せんといかん」父の言葉を思い出した。

時に恐ろしい水。しかし大切な水。

歴史上人々は何度も災害を経験し、そのたび毎に立ち上がってきた。これからも私たちは水とうまく付き合い、安心して暮らせるための工夫をしながら生活しなければならない。そして、私たちにとって水は最も大切であるということを忘れず、先人たちの知恵と行動に感謝しながら日々を送っていきたい。

雨は決して「あいにく」ではない。

学習・体験を踏まえて考えたことを書いてみよう